

## 第6号

日本共産党区議会議員  
Japanese Communist Party

# 安藤たい作 ニュース



## 第三回定例議会・決算特別委員会はじまる

### 貧困と格差広がるもと・区民の感覚とあまりにもずれていませんか??

「たしかかな野党」、日本共産党区議団の  
値打ちが浮き彫りに

議会を休会して選挙が行われておりましたので、当選後翌々日に初登庁↓新人議員研修↓そして議会の再開・本会議↓決算特別委員会と、あわたたしい日々が続いています。

いま品川区議会は、年に四回おこなわれます定例議会の第三回目、前年度の決算を審議する、年に一度の決算議会にあたります。新人研修では事務局の方が「今が一番忙しい時期。新人議員のみなさんは運行中の特急列車に飛び乗るようなものから」と言っていました。それも納得というものです。

再開された議会では、早くも選挙前後の日本共産党の奮闘の成果が出ています。議長提案で「政務調査費あり方検討会」が立ち上がりました。ほんらい調査に使うべきこの政調費を自民党区議団が飲み食いに使っていたことが大問題になりました。日本共産党はこの問題をおおいに掲げて選挙をたたかい、世論を牽引してきました。今回の「検討会」発足は世論の圧力を受け、「税金飲み食い勢力」が追い詰められた結果といえます。

議会に参加しての感想は一言で言うところ「区と日本共産党以外の全会派の仲良しぶりを痛感」。オール与党とはこういうものかと実感しました。今の区政は福祉の増進という自治体本来の役割より、リストラや非正規雇用への置き換え、あるいはジャンジャン民間委託するなど、徹底した「行財政改革」を優先させています。それが私たち区民にとって果たしてプラスなのでしょうか。住民の立場でしっかり区政をチェックする「たしかな野党」日本共産党区議団の価値は際立っています。

